

2021 キリバス民間ユネスコ協会設立支援準備プロジェクト企画書 概要版（9/8版）

※2020年度実施「キリバス民間ユネスコ協会設立予備調査プロジェクト」の継続事業

公益社団法人 仙台ユネスコ協会

0 背景

キリバス共和国の現状

- ・中央太平洋に位置するキリバス共和国は、33の環礁から成り立ち、赤道直近に350万km²にわたって島が散らばっている。地球温暖化で最初に影響を受ける国と言われ、島々の海拔は平均で2メートル以下であることから、海面上昇は目の前に迫る大きな課題となっている。すでに海岸線の浸食がおきており、移住を余儀なくされた村も出ている。
- ・同国にあるフェニックス諸島は世界最大の海洋保護区として2010年にユネスコ世界遺産に登録されている。また首都の南タラワ及びベシオの小中学校、国立高校であるKGV/EBS校の計14校（小学校10校、中学校3校、高校1校）はユネスコスクールとして登録されているが、キリバス国内では民間ユネスコ活動が行われておらず、ユネスコ世界遺産も活用されていない。

ケンタロ・オノ氏と仙台ユネスコ協会との関係

- ・持続可能な開発目標：SDGsの市民への啓発を活動の柱としている（公社）仙台ユネスコ協会は、気候変動について正しく学ぶべく、（一社）日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏に講演を2018年に依頼。以降、同氏と協働関係を構築している。
- ・これをきっかけに仙台ユネスコ協会はSDGsの重要性を認識しESD/SDGs委員会を立ち上げ定期的な勉強会を開催している。

※ケンタロ・オノ氏は仙台市出身。日本国籍者として初めてキリバス共和国に帰化。キリバス政府内外の様々な役職を歴任、地球温暖化問題で世界的に脚光を浴びるアノテ・トン大統領（当時）の私設政策補佐官も務めた。東日本大震災後の2011年から仙台市在住、2018年まで在日本キリバス共和国名誉領事・大使顧問を務める。日本キリバス協会を設立、キリバスにおける気候変動・地球温暖化が引き起こす人的側面の問題と、それに直結するSDGsに関する講演活動を、市民対象、学校訪問等で精力的に行っている。2020年「宮城県ストップ温暖化大賞」「気候変動環境アクション環境大臣表彰」受賞。

キリバス共和国関係者からの要請

- ・8つの環礁からなるキリバス共和国のフェニックス諸島は、全島とその海域が2009年に同国政府により制定された世界最大の海洋保護区であり、2010年には世界遺産に登録されている。キリバス共和国内ではこれをユネスコ活動等、教育の素材として活用していきたい意向がある一方でプログラム化には至っていない。この問題意識は在任中に同諸島の海洋保護区化と世界遺産登録に尽力した、アノテ・トン前大統領（過去2回ノーベル平和賞候補者）も持っている。
- ・仙台ユネスコ協会は、世界初（1947年）の民間ユネスコ協会として世界にその名を知られている。前述のオノ氏との関係性や世界遺産の保全の観点から、キリバス共和国関係者の間で民間ユネスコ運動への関心が高まり、自国の課題への対応に向けた連携協力の要請がある。

2020年度実施「キリバス民間ユネスコ協会設立予備調査」から

- ・キリバス国内における民間ユネスコ活動の高いニーズが確認でき、日本の児童生徒、青少年、教員、教員志望の学生等との交流や草の根レベルの文化交流が渴望されていることが分かった。また、民間ユネスコ協会の必要性、設立の可能性も確認できた。

1 プロジェクト概要

1. プロジェクトが貢献するSDGsのゴール及びターゲット

4 質の高い教育をみんなに

- 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

11 住み続けられるまちづくりを

- 11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。

13 気候変動に具体的な対策を

- 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

14 海の豊かさを守ろう

- 14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

16 平和と公正をすべての人に

- 16.8 グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



2. プロジェクトの目的と概要

(1) キリバス国内

【目的】

- ・キリバス国内における民間ユネスコ活動への機運を高め、(仮称)キリバスユネスコ協会設立への土台作りを進める。
- ・キリバスが直面する気候危機を、世界の課題として国際協力の中で取り組んでいこうとする教育活動を、日本のユネスコスクールの学習活動から学ぶ。
- ・市民交流を通し文化の多様性に触れることで、キリバスの固有の文化に誇りを持ち、大切に継承していこうとする若者世代を育てる。

【概要】

- ・2020年度調査によって確認された、キリバス国内における民間ユネスコ活動のニーズに沿って、支援環境を整備する。
- ・(仮称)キリバスユネスコ協会立ち上げの合意形成を目指し、設立発起人候補や現地関係者とオンラインによる面談を行う。
- ・協会立ち上げに必要なステークホルダーのネットワークを構築、キリバスに「設立準備Committee」、仙台ユネスコ側に「設立支援Committee」を立ち上げる
- ・両国の「Committee」が協働し、協会運営を担う人材育成を実現するための行動計画を策定する。
- ・両国ユネスコスクール間の、児童生徒や教員のオンライン交流を実施、日本における先進的なユネスコ活動やキリバスユネスコスクールのユネスコ活動などを紹介し合う。

- ・民族芸能や民謡など、市民レベルでのオンラインによる文化交流を実施する。
- (2) 日本国内

【目的】

- ・キリバスの文化や危機的な現状への理解を深め、宮城県内における学校やユネスコユース、市民レベルでのユネスコ活動を活発化させる。
- ・キリバスとの交流活動を切り口にユネスコスクールの活動を紹介し、ユネスコスクール以外の学校にも、ユネスコ活動を広める。
- ・キリバスが直面する気候危機を地球環境問題として捉えた、モデルとなる学習活動の実践を提案し環境教育の充実に資する。

【概要】

- ・2020年度作成した、キリバスを入口とした小学校6年対象学習プログラムの汎用化・広報を行う。
- ・中学校、高等学校における学習プログラム作成や交流を実施する。
- ・SDGsに対する関心の高まりを受け、ユネスコの理念をベースに「SDGsの学び」の社会人対象の講座を企画する。
- ・ユネスコ青年部を企画者として、キリバスのユース対象、ユネスコ活動紹介映像を制作する
- ・(再掲) 両国ユネスコスクール間の、児童生徒や教員のオンライン交流を実施、日本における先進的なユネスコ活動やキリバスユネスコスクールのユネスコ活動などを紹介し合う。
- ・(再掲) 民族芸能や民謡など、市民レベルでのオンラインによる文化交流を実施する。

3. 目的達成に向けた、スケジュールと連携機関/リソースパーソン

	(1)キリバス国内におけるユネスコ活動への理解推進と民間ユネスコ協会設立への機運作り	(2)キリバスを切り口にした日本国内におけるユネスコ活動の活発化と学校教育・社会教育でのSDGsへの関心の高まり
7月	企画・調整	企画・調整
～	キリバス関係者との面談(オンライン)	仙台ユネスコ協会に「設立支援Committee」、外部支援組織として「運営協議会=Advisory Committee」立ち上げ
9月	教員交流(オンライン)	キリバス関係者との面談(オンライン) 教員交流(オンライン)
10月	キリバスに「設立準備Committee」立ち上げ	出前授業実践
～	行動計画の策定	SDGs講座の実施①
12月	ユネスコスクール間のオンライン交流①	活動紹介VTR制作 ユネスコスクール間のオンライン交流①
1月	ユネスコスクール間のオンライン交流②	ユネスコスクール間のオンライン交流②
～	キリバス関係者との面談(オンライン)	キリバス関係者との面談
～	市民レベルの文化交流会(オンライン)	市民レベルの文化交流会(オンライン)
～	※可能であれば渡航	SDGs講座の実施②
3月	報告書作成	報告書作成
連携機関 / リソースパーソン	<ul style="list-style-type: none"> ◆日本キリバス協会(Himawari Enterprise) 代表者: アニータ・ユメミ・ジョング氏 ◆キリバス共和国教育省政策・計画・研究開発局(Policy Planning and Research Development Unit) 局長: レーシナ・カトキター氏 ◆フェニックス諸島保護海域基金事務所(Phoenix Islands Protected Area Trust) ◆アノテ・トン前大統領 ◆ユネスコスクール登録校(14校) War Memorial小学校 Rurubao 小学校 ◆ユネスコ・キリバス国内委員会 ◆ユネスコ・アピア事務所 	<ul style="list-style-type: none"> ◆(一社)日本キリバス協会 代表理事: ケンタロ・オノ氏 ◆ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 委員長: 宮城教育大学教授(国際理解) ◆東北・北海道ユネスコスクール登録校 ◆(公財)ユネスコアジア文化センター ◆(公社)日本ユネスコ協会連盟 ◆東北ブロック・ユネスコ連絡協議会 ◆宮城県各ユネスコ協会・連絡協議会 ◆気仙沼ユネスコ協会 ◆気仙沼ESD/RCE委員会 ◆気仙沼市立鹿折小学校 ◆国立学校法人 宮城教育大学附属小学校 ◆誇雀会松涼健人万年青組

2 プロジェクトの内容	
1. 具体的内容と期待される成果 (SDGs のゴール及びターゲットとの関連)	
内容	成果とSDGのゴール及びターゲットとの関連
<p>(1)(仮称)キリバスユネスコ協会設立に向けた機運づくり</p> <p>①キリバス関係者との面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度実施のオンラインヒアリングでのニーズの確認を受け、設立発起人や新たな連携関係者も交えたオンライン面談(Meeting)を行う。 ・設立に向けた合意形成を行う。 <p>②「Supporting Committee for Establishment of the Kiribati Non-governmental UNESCO Association(キリバス民間ユネスコ協会設立支援準備委員会)」を立ち上げる。」(以下 Supporting Committee=設立支援 Committee)メンバーは、仙台ユネスコ協会推進委員と運営協議会委員</p> <p>③キリバスに「Kiribati Non-governmental UNESCO Association Preparation Committee(キリバス民間ユネスコ協会準備委員会)」(以下 Preparation Committee=設立準備 Committee)を立ち上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング先、Meeting参加者を中心としたステークホルダーのネットワークを構築し、委員会の立ち上げを支援する。 ・両国「Committee」共同で、行動計画を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(16.8)キリバス共和国内においてユネスコ本部が提供する情報が活用され、ユネスコスクール登録校の活動を報告する等、活動の活性化によりグローバル・ガバナンス機関へのアクセスが増す環境が整備される。 ・(17.16)仙台ユネスコ協会と日本キリバス協会が連携し、ユネスコ活動を通してキリバス共和国内の関係者との関係が構築される。互いの知見を共有し、学び合う協働の場を醸成し、グローバル・パートナーシップを実現する環境が整備される。 ・(17.17)キリバス国内でのユネスコ活動を通して官民連携の体制が推進される。
<p>(2)キリバス・日本両国におけるSDGsの学び合い</p> <p>④教員交流(オンライン)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の交流に先だって、交流校の教員同士の交流を実施、関係性を築き、児童生徒間の交流をより実のあるものにする。 ・交流の成果が大きく、要望と日程がかみ合えば複数回の実施も視野に入れ、SDGs・教育課題などのテーマをもった交流を行う。 <p>⑤ユネスコスクール間でのオンライン交流「気仙沼市立鹿折小学校3~6年生」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手校はタラワのWar Memorial小学校 ・総合的な学習の時間と教科学習のカリキュラムマネジメントによる探究学習「海と生きる」の学習での交流 <p>⑥ユネスコスクール間でのオンライン交流「国立大学法人 宮城教育大学附属小学校5,6年生」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手校はタラワのRurubao小学校 ・5年生 総合的な学習の時間と教科学習のカリキュラムマネジメントによる探究学習「海とわたしたち」の学習での交流 ・6年生 英語科での交流学习 <p>※2020年度ヒアリング、キリバス共和国教育省政策・計画・研究開発局長レーシナ・カトキター氏から、教員間、学校間の交流推進への最大限の支援の申し出を受けている。</p> <p>⑦学習プログラムの作成・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年作成の6年社会科「世界の未来と日本の役割」のブラッシュアップ(汎用化)と仙台市教科研究会との連携による発信(予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・(4.c)両国の教員が情報交換や互いに啓発し合い特に他国との交流の機会が少ないとされるキリバスの教員研修が推進される。 ・(4.7)持続可能な開発を促進するための教育の機会が提供され、学習者である児童生徒にグローバル・シチズンシップが育成される また教育現場での実践に資する汎用性のあるプログラムが創出される。 ・(14.1)海と共に生活する両国の共通性から、海洋汚染を防止し海の豊かさを守ることの大切さが共有される。 ・(4.7)持続可能な開発を促進するために有効な学習プログラムが多くの学習者に共有される。

<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高等学校の学習への提案 ※2020年度ヒアリング、アノテ・トン前大統領からの課題提起「世界自然遺産フェニックス諸島保護海域～地球と人類への貢献」の教材化 ⑧活動紹介映像制作 <ul style="list-style-type: none"> ※2020年度ヒアリング、日本キリバス協会(Himawari Enterprise)アニータ・ユメミ・ジョング氏からの課題提起に対応 ・キリバスのユース世代をターゲットとした内容 ・制作は仙台ユネスコ協会青年部 ⑨市民レベルの文化交流(オンラインハイブリッド)1月29日(土) <ul style="list-style-type: none"> ※2020年度ヒアリング、キリバス共和国教育省政策・計画・研究開発局長レーシナ・カトキター氏からの要望 ・キリバス文化と日本の文化、芸能交流、手工芸品の紹介 ・キリバスダンス、歌謡⇄仙台雀踊り、民謡など ⑩キリバスを切り口としたSDGs理解市民講座の開講 <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコの理念×気候変動×防災×SDGsをテーマにした講座 ・ケンタロ・オノ氏他、専門家を講師とした学び ・オンラインと対面のハイブリッド講座。民間ユネスコ協会のネットワークを通して、全国のユネスコ協会に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(11.4)キリバス国内のユネスコ活動を通して、海洋保護区に登録されている自然の重要性を認識し、キリバス国内における保護活動への意識が高まる環境が整備される。 ・(4.7)次代を担うユース世代が、互いの文化や活動を紹介し合うことで、文化の多様性を認め、多文化共生社会の構築や持続可能なライフスタイルを、自分事として捉える。 ・(4.7)自分たちの文化を誇りにし、他の文化も認め合う、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する。 ・(13.3)キリバスの現状をSDGsの視点から伝えることにより、講座の参加者が気候変動課題を理解し、暮らしの中でできる行動変容が促される。
--	--

3 次年度以降の計画

2022年度

- 「キリバスユネスコ協会」がキリバス国内関係者によって設立された後、キリバスに渡航し、現地で仙台ユネスコ協会との連携協定を締結する。※渡航できない場合は、ラインで
- 国内～2021年の実施プログラムを宮城モデルとして東北、および日本国内に発信する。
- 交流事業及び講演活動は、オンライン含め継続、拡大する。

2023年度～

- 「キリバスユネスコ協会」の運営支援を、自立し軌道に乗るまで続ける。また、キリバス共和国政府に対して協会への資金的・人的支援について働きかけを行う
- 協定をもとに日本とキリバス間の、学校教育・市民(社会)教育における交流事業、連携事業を実施する。
- キリバス共和国ユネスコスクール登録校の教員を日本に招致し、日本国内での研修を実施するとともに、宮城県内のユネスコスクール登録校における交流事業を実施する。
- 仙台ユネスコ協会の公益活動(国際交流)として位置づけ、連携・支援・交流を継続する